国立大学法人
鳴門教育大学

# 鳴門教育大学
# 避難訓練

2023. 11. 13


東京消防庁Webから

# 令和5年度 鳴門教育大学高島地区防災訓練実施計画

## 1. 目 的

本訓練は、鳴門教育大学高島地区消防計画に基づき、南海トラフを震源とする大地震・大津波に対して、教職員及び学生が迅速かつ安全に避難するための総合的訓練とし、防災に対する心構えと意識の高揚を図ることを目的として、原則、教職員・学生全員参加で実施します。また、安否確認方法を確立することから、教職員及び学生は連絡可能な状況になり次第、スマートフォン等から各自の状況を知らせる安否確認訓練を併せて実施します。訓練は、危機管理対策本部・自衛消防隊訓練と避難訓練を一体化して行います。

## 2. 日 時

（1）体験訓練 令和5年11月13日（月）12:00～13:00

（2）防災訓練 令和5年11月13日（月）14:10～15:00

（地域住民（鳴門西地区自治振興会）は13時15分までに共通研究A棟1階ロビーに集合）

## 3. 実施場所

（1）体験訓練 図書館前、共通研究D棟（別図参照）
（2）防災訓練 本部棟3階特別会議室（危機管理対策本部）他、津波避難場所は共通研究A棟、共通研究C棟、共通研究D棟、共通研究E棟【改修中】、共通講義B棟の3階以上
（※ 鳴門市のハザードマップでは、本学（高島団地）の1階は浸水しないとの予想だが、想定外の津波に備え、訓練のため3階以上への避難を想定する。）
地域住民（鳴門西地区自治振興会）は共通研究A棟1階ロビー集合

## 4. 対象者

（1）体験訓練 教職員、学生、地域住民
（2）防災訓練 危機管理対策本部、自衛消防隊、教職員、学生、地域住民

## 5. 訓練想定 地震（震度6強）、大津波警報発令

地震発生　14：10
火災発生　14：20
負傷者発生 14：22
津波到達　14：30



12時からの体験訓練は天候の関係で中止：雨天（気温9度）



13時15分から、地元住民の避難訓練（体験）の待機場所を変え、地域連携センターで行った。備蓄品の配布（提供）も行った。



地元住民18名が参加
鳴門市から、笠原危機管理局長
本学から　美馬理事はじめ5名
計24名が参加





14時10分：緊急地震速報で訓練開始：雨があがる（気温12度）



# 各講義室から3階へ垂直避難開始










講義棟3階で待機

# 3階へ避難（B棟1階からC棟3階へ）



14時25分（本来は30分以降だが） 津波到達後、3階から体育館前へ水平避難（一番早い学生と最終の学生の時間差は15分）









# 執行部（本部担当理事）が来るまで、阪根が防災講話をしてつなぐ



14時45分頃、執行部（本部担当理事）が到着、講評

最終的に約400名が参加（推計）





携帯している「危機管理マニュアル」を確認する学生
（数名が財布内にあるかを確認していた）






備蓄品配布（天候の関係で、講義棟前ピロティーで実施
＊昨年の反省から、縦2か所で導線を設定（3時すぎで終了）



備蓄品配布（天候の関係で、講義棟前ピロティーで実施
＊昨年の反省から、縦2か所で導線を設定（3時すぎで終了）



備蓄品配布

＊留学生は大喜び。特にビスケットが好評であった。





備蓄品配布

＊配布した総量 （受け取った学生や教職員　約400名）



本学付近は、海抜7メートル、標高3メートル程度だが、津波のハザードマップでは、安全地区である。ただ、想定外のこともあり、元塩田跡地であるため「液状化」が想定され、避難そのものが難しいこともあり得る。また、東隣に「アイノ水尾(にお)川」(準用河川)があり、津波の遡上の可能性も否定できない。




